

「今昔物語」30回。大崎に、 こんなにも多くの歴史ストーリーが…

過去から現在、未来へと受け継がれていく「ふるさと大崎」のDNA(原風景)を訪ねる『おおさき今昔物語』。

その第三十話は、「大崎今昔物語」掲載30回を迎えて振り返る、大崎の豊かな歴史遺産の数々。日本で初めて誕生した多くの事物をはじめ、郷土大崎の歴史の中に眠る知られざる史実。

副都心大崎への目覚ましい発展を遂げたその土壌に、これら多くの歴史ストーリーが存在したのです。

大崎の一大植物園「妙華園」



茶の湯の文化を育んだ大崎苑



ズラリ大崎発の“日本初”。ご存知でしたか？

飛行船が
生まれ、
飛んだ!



“ものづくりのまち大崎”の先駆けともなった日本初の飛行船製造。その第1号機は明治43年、初めて大崎目黒川畔から東京上空へと飛翔しました。

洋式ガラス
生誕の地



大崎で始まった近代工業への歩み。日本初の洋式ガラス工場、品川ガラス製造所が明治9年に創設、国を挙げた殖産興業化を牽引します。

大型国産
オートバイは
大崎から



昭和10年、米国製「ハーレーダビッドソン」の国産化で誕生した“伝説の陸王”。日本陸軍の単車としてここから大陸へと駆け回ります。

日本一の
花の名所が



明治末期、向島百花園を凌ぐ名所となった「妙華園」1万坪もの植物園に咲くランやバラetc.が多くの人々の目を癒していました。

活気と
賑わいの
百反坂



昭和初期、大崎駅へのメインストリートとして150店もの店々が軒を連ねていた百反坂。松竹演芸場やミルクホールもありました。

沢庵和尚
ゆかりの
名刹



名僧沢庵が生涯を閉じた「東海寺」。質実の大切さを伝えた「たくあん漬け」由来のストーリーも、ここから生まれています。

知られざる「さきがけの地」としての真実が…

輝いていた郷土大崎、豊かな歴史の里

日本初の
私鉄駅だった
「大崎」



明治34年の開業時は、日本初の私鉄(日本鉄道品川線)駅の一つとして活躍。北関東からの生地や米の貨物輸送が駅務でした。

カボチャと
シクラメン
の里



江戸・明治期の名産品「居木橋カボチャ」やシクラメンが栽培されたのも大崎から。植物栽培に最適な環境がそこにありました。

国産
スピーカーが
ここから



スピーカーの国産化を実現した「アシダボックス」。ピヨピヨと鳴る盲人用交差点スピーカーも、大崎から送り出されています。

ものづくりの
まちの
先駆者達



明電舎や日本精工など、大崎のまちの発展を一体となって支えたものづくりの先達。苦難と同じ数のサクセスがそこにありました。

茶苑の
一大テーマパーク
があった!



江戸時代、松江藩松平家の下屋敷に、趣向を凝らした11室もの茶苑が広がり、茶の湯の伝統文化がここに育ち、広がっていました。

清らかな
水辺の郷土
大崎



豊かな水の恵みが育んだ郷土大崎。大正から昭和初期、天然の清水で作った氷室や、品川用水が回した水車も、大崎の原風景を伝えます。

洋式ガラスの誕生や飛行船の飛翔から始まる、ものづくりのまち大崎の歩み。一方で、江戸の昔からの文化醸成の地もここに…

